

# 健康 ぷらざ

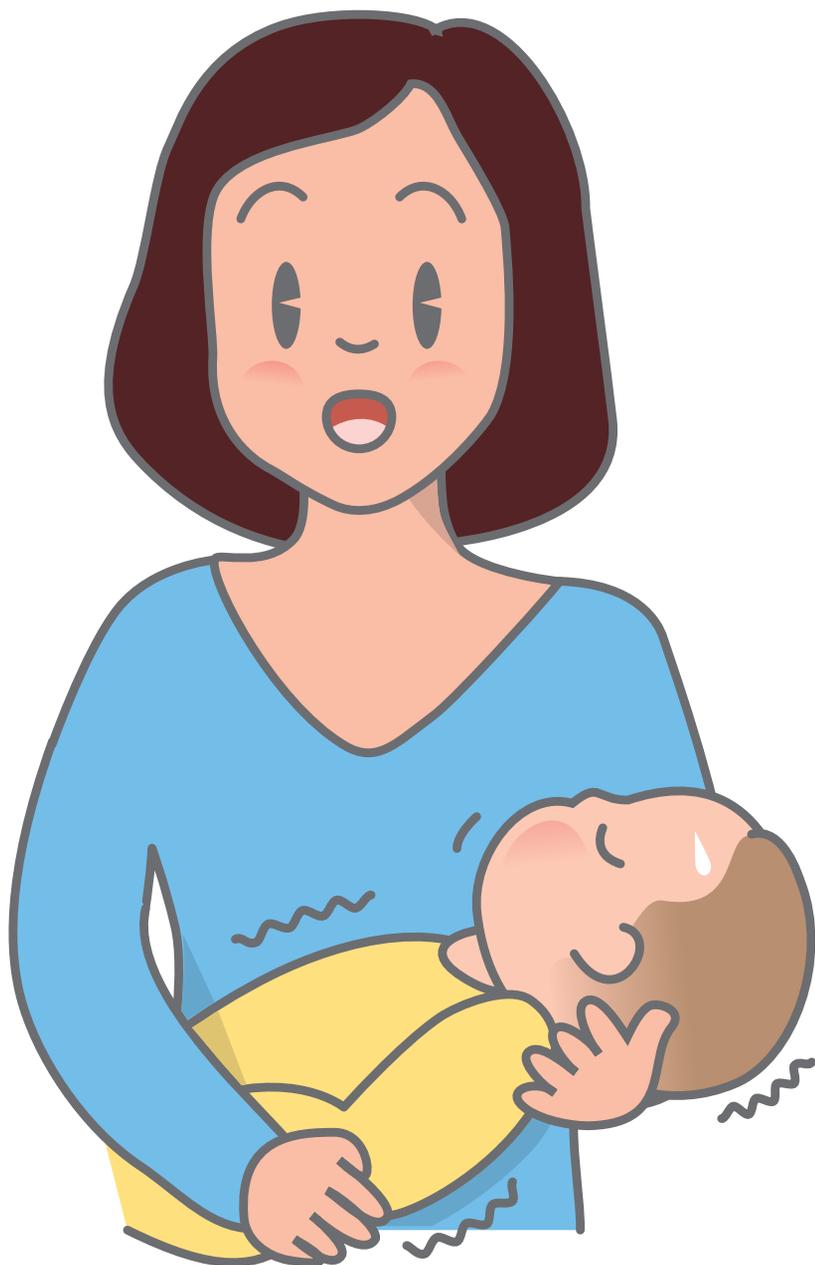
## 子どものひきつけ

—あわてずに判断を—

指導：荻原医院 院長 荻原 正明

企画：  
日本医師会

No.222



### 原因は「熱性けいれん」が一番多い

「ひきつけ」とは、突然つっぱったように全身をふるわせ、意識がなくなるような発作をいいます。原因にはいろいろありますが、その中で一番多いのが生後3カ月から5歳、とくに1歳代の子どもにみられる熱性けいれんです。これは、子どもの6~7%にみられ、かぜや突発性発疹症などの時に38℃以上の発熱に伴って出現します。

熱性けいれんでは発作の持続時間が2~3分と短く、それによって脳に障害が起こることはないため、それほど心配することはありません。

### その時に気をつけることは？

発作の時、舌をかまないように無理に口をこじ開けると歯をいためることになるのでやめましょう。嘔吐おうとがみられることがありますが、吐いた物で窒息しないように体を横にしましょう。発作の様子をよく観察しておくことは、もとになっている病気の診断にとって大切なことです。救急車を呼ぶ前に、あわてずに、かかりつけ医に連絡して相談しましょう。



### どんな場合に医師を受診するか

熱がなくてけいれんがみられた場合、24時間以内に2回以上けいれんがみられた時、発熱時のけいれんでは10分以上続く時、左右差のある場合、けいれん後の意識が1時間以上戻らない時は、熱性けいれん以外の病気が考えられますので、すぐに医療機関を受診する必要があります。

また、インフルエンザの流行する季節にはインフルエンザ脳炎・脳症にも注意が必要です。